

「アクティブ・ラーニング?～みんなの思いの引き出し方を学ぶ～」 (府立かわち野高等学校 パッケージ研修支援Ⅰ)

府立かわち野高等学校の全体研修会が、9月5日(水)に行われました。

昨年度から当センターの「授業改善に関するカリキュラム・マネジメントリーダー研修」を受講し、今年度は「パッケージ研修支援Ⅰ」にも申し込んでいます。研修主担の教員を中心に多様な教員で構成されたチームで、積極的に組織的な授業改善の取組みを推進しようとしています。

全体研修会は、他校で行われたアクティブ・ラーニング研修の報告とシンキングツールを使った活動を体験してみるという2本立てでした。

アクティブ・ラーニング研修の報告は、経験年数の浅い教員が行いました。ICTを活用して視覚的に工夫し、知識は活用して初めて「記憶」として残ることや「わかったつもり」を「わかった」にどのように導くのか、うまく行っている授業には同じコツがあるなど、内容的にもとても分かりやすく報告してくれました。

シンキングツールを使った活動は、「生徒がする前に、まずは教師がやってみよう」という目的で行われました。「クラス開き」をテーマに「Xチャート」を利用して、教科や当校での経験年数を越えたグループ編成を行い、活発なワークが実施されました。その後、「クラス開き」の実施に向けた企画・運営をさらに詳しく考えていくために、「フィッシュボーン」というシンキングツールを使ったワークが実施されました。

「クラス開き」に何のために、何を、どんな風に行うのか。「フィッシュボーン」に構造化された各班のねらい、工夫、課題や課題への対策等は、経験年数の少ない教員にもとても役に立つものばかりで、個々の教員の工夫を共有し合うことの大切さを参加者が実感する全体研修会となりました。同じ方法を使って、「授業の作り方」などテーマ設定を変えながら、教員同士で様々な学び合っていけそうです。

今後は、数学科の研究授業を行い、学校全体で組織的な授業改善についてさらに考えを深めていきます。

かわち野高等学校が、今変わり始めています。

その変化をよりよいものにするため、教育センターは継続的な支援を行います。



(高等学校教育推進室)

『わからない』と素直に言えることの大切さ」（府立かわち野高等学校パッケージ研修支援Ⅰ）

10月5日(金)、府立かわち野高等学校にて、第1回のパッケージ研修支援に係る研究授業及び研究協議を行いました。今回は初任者による数学の研究授業でした。ちょうど1ヵ月前の校内全体研修で紹介された「思考ツール（生徒の思考や表現を助ける手法の一つ）」を用いて、与えられた課題に挑戦する問題解決型の授業でした。

【研究授業】

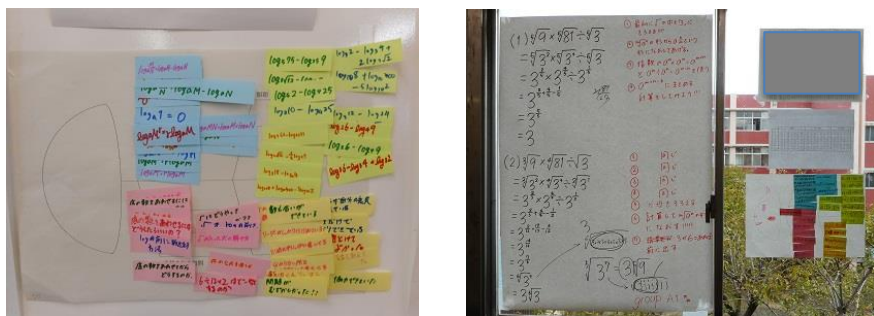
単元は数学Ⅱの「指数関数・対数関数」でした。考査前の授業ということで、復習にあたる場面です。単にプリントを配付して個人で問題を解くのではなく、40人の生徒を8グループに分けてグループごとにそれぞれ違う課題を解きます。前時に、生徒はグループ内で思考ツールの「フィッシュボーン」を使いながら、解法に必要な知識・技能や想定される質問内容、類題・疑問点などを構造化しており、本時は担当する課題の解法を模造紙に書くところからスタートしました。模造紙には、単に解答を記載するだけでなく、他のグループにもわかってもらうために大事な個所にアンダーラインをしたり注釈をつけたりと解法の流れを示したりする工夫がたくさん見受けられました。そして、それぞれの班では模造紙の解答を説明する生徒と他の班の説明を受ける生徒に分かれて活動し、最後は始めのグループに戻り、他のグループが取り組んだ問題の解法を班員にそれぞれが説明しました。「ここがわからないからもう少し説明してほしい」「説明を受けたときは『わかったつもり』だったけれど、いざ人に説明するととなると『わからない』」というような素直な声がたくさん聞こえてきます。自己評価シートには、自分が『わからなかった』ところやうまく友だちに説明できなかったことを自覚し、『できるようになりたい』という記述も見られました。

【研究協議】

放課後の研究協議は、生徒が考えをまとめる過程で用いたたくさんの付箋が貼られたフィッシュボーン、発表資料の模造紙や自己評価シートなどが掲示されたアクティブラーニング室で行われました。このようにして生徒が表現したもの（成果物）を確認することで、生徒がこの単元で何をどのように考え、学んできたのかが分かります。また、校内の授業研究チームが協力して授業改善に取り組む姿も、これを見ただけで分かります。

協議では、指導案の本時の学習活動の部分を模造紙に拡大したものを準備し、それぞれの時間帯でよかった点（赤色）、改善すべき点（青色）、疑問・質問点（黄色）を記入した付箋を貼って議論を深めていきました。この方法では、授業を見学できなかった先生も、質問点の付箋を貼ることで協議に参加できます。参加者全員が成果や課題の解決方法を議論することが可能となり、とても有意義で大切な時間でした。

今回の研究授業・協議のスタイルがかわち野高校で定着し、今後も生徒が主役になる授業づくりと先生方が参画する研究協議になるよう、大阪府教育センターは全力で支援していきます！



(高等学校教育推進室)